

### 第3学年 道徳学習指導案

い組 男子 20名 女子 20名 計 40名  
指 導 者 中 村 太 一

#### 1 主 題 名 友だちっていいな

2-(3) 友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。

#### 2 主題について

##### (1) 主題の位置とねらい

この期の子どもたちは、学校生活における様々な学習や活動の中で、友達に優しくしたり、協力したりすることの大切さに気付き、友達と仲良くし、助け合おうとする気持ちをもって努力してきている。しかし、自分本位な考えから友達への短所ばかりを責めてしまったり、恥ずかしさから相手の気持ちを思いやった言動ができなかったりすることがある。このようなことから、この期の子どもたちに、友達のありがたさを理解し、相手の気持ちを思いやって、互いに助け合ったり協力し合ったりしながら生活していこうとする態度を育てる必要がある。

本主題では、友達と協力し合いたいと考えながらも行動することができない場面で生じる心情や心情の変化を、自らの体験場面での内面と関係付けて類推しながら追究する活動を通して、友達のありがたさを理解しようとしたり、相手の気持ちを思いやって互いに助け合ったり協力し合ったりしながら生活していこうとする心情を育てることをねらいとしている。さらには、友達と互いに理解し、信頼し、助け合おうとする生き方は、自他共に心がすっきりすることや互いに支え合って生活することができるようになることに繋がるというよさを実感し、これからの生活に生かしていこうとする意欲を高めていくこともねらいとしている。

このような学習を通して身に付けた見方・考え方・感じ方は、互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う生き方を追究していく学習へと発展していくことになる。

##### (2) 指導の基本的な立場

友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことについて、人間のもつ二面性に着目して人間理解を深めるという立場から分析すると右の図のようになる。

友達と互いに理解し、信頼し、助け合うためには、自分本位な考えや思慮不足などの心の弱さを乗り越えて、友達のありがたさを理解し互いに相手の気持ちを思いやり、互いの信頼関係を築いていこうとしたりする意欲や態度が求められる。

それを支えるものが、「互いに心がすっきりすること」や「互いによさが理解できる。」といった意義であり、「相手の気持ちを考える」「友達のありがたさを考える」といった心構えであると考えることができる。

ここでは互いによさを理解し、尊重し合うことで、男女の区別なく、誰とでも信頼関係を深めて助け合い、自他共に調和的に生きたいという願いを基に、友達のよさやありがたさを理解し、信頼関係を深めて助け合うこと



◎は重点的な学習内容

のできるよりよい人間関係を築こうとすることを目指した生き方とし、その実践を支える見方・考え方・感じ方(意義や心構え)と実践を阻む心の弱さの両面から、人間理解を深めていくことになる。

具体的には、友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことが、自他共に快い感情になり、互いに相手のよさを理解できるようになることやそのことにより周りの人たちと信頼関係が深まり、みんなが助け合って生活できるようになることを理解させる。一方で、そうありたいと思いながらも自分本位な考えや思慮不足、利害損得の感情、外への欲求などの心の弱さからなかなか実践できないことがあることにも気付かせる。そして、それらの弱さと望ましい生き方との間に起こる心の葛藤を乗り越えていくためには、いつも相手の気持ちを考える、友達のありがたさを考える、相手を信じる気持ちをもつ、勇気を出して行動するなどの心構えが大切であることも理解させる。

このような内容にかかわる生き方への共感を高めるために、本主題では、読み物資料「ぼくの友だち」(自作資料)を取り上げることにした。この資料は、次のような粗筋である。

一日遠足で大浪池に山登りに出かけたつよしは、仲の良い友達と励まし合いながら、大浪池を登り切ることができた。昼食の時間、自分を励ましてくれた仲の良い友達と弁当を食べようとしている時、少し離れたところに一人座って弁当を食べようとしている転入生のただしの姿を見つける。つよしはただしとあまり話をしたことはなかったが、ただしに「いっしょにお弁当を食べようよ。」と誘い、楽しく話をしながら弁当を食べたという内容である。

この資料を扱うに際し、話の内容の理解を深め、つよしや周りの仲の良い友達の心情に十分に触れさせるために、録音CDや一枚絵を活用する。また、つよしたちの立場に自分を置き替えて考えさせたり、子どもたちの体験場面を振り返らせたりして、そこでの心情とつよしたちの心情とを関係付けて類推させることができるようにし、つよしたちの心情や心情の変化に自我関与させる。

具体的には、まず資料の一読後の感想から、周りの友達と励まし合って山を登りきることでできたつよしは、一人で弁当を食べようとしている転入生のただしに気付き、自分たちといっしょに食べようと誘うかどうか迷っている場面での心の葛藤を追究させる。

さらに、心の葛藤を乗り越えるために、つよしが大切にしたい意義・心構えを追究させるが、その際、その意義や心構えを大切にすることの難しさを意識させることで、よりよい生き方を目指していく妨げとなる心の弱さや、そのことを乗り越えた後のよさについて、さらに深く広く追究させるようする。

このような過程を重視する学習を通して得られる能力や態度は、友達のよさやありがたさを理解し、信頼関係を深めて助け合うことのできるよりよい人間関係を築こうとすることを目指す生き方について、実際の生活場面においても、積極的にかかわっていかうとする意欲につながるものであると考える。

### (3) 子どもの実態

本学級の子どもたちの友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことにかかわる経験や、実践を阻む心の弱さ、実践を支える意義や心構えについての認識は、以下の通りである。

〔表1〕友達と仲良くしたり、協力し合うことのできた経験(総反応数45)とそのときの感情(総反応数40)についての認識

友達と仲良くしたり、協力し合うことのできた経験	反応数(人)	そのときの感情	反応数(人)	そのときの感情	反応数(人)
運動会	20	協力し合えてよかった	10	友達になりたい	2
生活科などの学習の中での活動	17	みんなのためになれた	8	もっといいものができる	2
一日遠足	4	うれしい	6	自分のためになった	2
児童会活動	2	楽しい	5	一生懸命になれた	1
係活動	1	気持ちがよかった	4		

〔表2〕実践を阻む心の弱さについての認識 (総反応数41)

心の弱さ	反応数(人)	心の弱さ	反応数(人)
自分本位な考え(相手が悪い)	22	意見の相違(自分の考えと違った)	2
思慮不測(あまりよく考えていなかった)	6	無関心(友達の話を聞かなかった)	2
利害損得の感情(自分が損をする)	4	楽観的な考え(これくらいいいだろう)	1
外への欲求(ほかの事がしたかった)	4		

〔表3〕 実践を支える意義や心構えについての認識

(総反応数 112)

意義・心構え		反応数(人)	意義・心構え		反応数(人)	意義・心構え		反応数(人)
対自己	友達が増えて仲良くなる	25	対他者	友達が増えて仲良くなる	12	対集団・社会	みんなが仲良くなる	3
	相手の気持ちを考える	18		うれしい	5		協力することができる	2
	うれしくなる	8		楽しくなる	5		みんなが親切になる	1
	勇気を出して自分から行動する	8		一人ではできないことができる	4		みんなが生活しやすくなる	1
	協力し合おうとする気持ちをもつ	8		幸せになる	1		助け合うことができる	1
	いろいろなことができる	3					明るい町になる	1
	知らないことを教えてもらえる	3						
	相手のことをもっと知ることができる	3						

〔表1〕から、運動会や生活科の学習など、学校における様々な体験の中で多くの友達と共に活動する中で、友達と仲良くしたり、協力し合ったりすることができたと感じている子どもが多いことがわかる。このことは、多くの友達とのかかわりの中で、子どもたちが道徳的価値にかかわる意識を感じることが多いということを示している。しかし、それらの場面において子どもたちが感じていることは、仲良くしたり協力し合ったりしたことによって得られる自分の快い感情が強く、そのことの意義を十分には感じていないことも分かる。このことは、〔表2〕において「相手が悪い」「自分のことだけを考えていた」と、実践を阻む心の弱さについても、自分自身の立場からの反応が強いことから分かる。さらに〔表3〕から「友達が増えて仲良くなる」「相手の気持ちを考える」といった自己にかかわる意義や心構えについて感じている子どもは多いが、他者や集団・社会に対する意義・心構えについては、十分に感じてはいないことが分かる。

これらの実態から、友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことへの意義や心構え、心の弱さについて、自分のこれまでの体験やその中で感じた心情への振り返りを通して、見方・考え方・感じ方を十分に深めたり広げたりさせるとともに、他者や集団・社会とのかかわりについても視点を広げさせる必要がある。

一方、道徳の時間において、本学級の子どもたちは、登場人物の心情や心情の変化、自分の考えについて積極的に発表するが、友達の考えを聞いて、自分の気持ちと比較して考えてみたり、自分の体験場面での内面と関係付けたりしながら見方・考え方・感じ方を深めたり広げたりするところまでは至っていない。そこで、多様な見方・考え方・感じ方に触れさせる中で、自分の見方・考え方・感じ方を深めたり広げたりするような働きかけを具体化していく必要がある。

(4) 指導上の留意点

本主題の指導を展開するにあたっては、友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことに対するよさの実感を深める中で、子どもたちがこれまでの様々な体験で感じてきた道徳的価値にかかわる意識が、これからの生き方へと連続し、発展していくようにしたい。

ア この内容にかかわる生き方についての切実な問題意識をもたせるために、これまでの体験場面を振り返らせ、友達とどのようにかかわっていきたいかという思いと、仲良くしたり、協力し合ったりすることができなかつたときの心情を対比させ、その矛盾から子ども一人一人が考えていきたい問題を設定させる。

イ つよしたちの心情や心情の変化に十分に共感させるために、まず、周りの友達と励まし合って山を登りきることでできたつよしが、一人で弁当を食べようとしているただしを誘うかどうか迷っている場面に焦点化する。そこでは、自らの体験場面での内面を振り返らせるなどの発問を通して、つよしが感じている心の葛藤を追究させる。

また、そのような心の葛藤を感じながらも、ただしを誘ったつよしが大切にしたい意義や心構えについて、対話活動を通して追究させるようにする。その際、その意義や心構えを大切にすることの難しさを意識させることで、よりよい生き方を目指していく妨げとなる心の弱さや、そのことを乗り越えた後のよさについて、さらに深く広く追究させるようする。

ウ この内容にかかわる自己の生き方についての考えを深め、これからの生活の中で生かしていこうとする意欲を高めるために、授業を通して強く共感するようになった考えについて、これからの生活の中でどのようにかかわっていきたいか、これまでの生活の中で感じていた気持ちはどのような意義や心構えにつながるかなど、自己評価として自分の考えをまとめる場を設定する。

### 3 本 時

#### (1) ねらい

- ア 友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことにかかわる自分自身の生き方を見つめ、自分自身のもつ心の葛藤を乗り越えて、相手の気持ちを考えることや友達のありがたさを理解し、互いに助け合って生活していこうとする気持ちを高めることができる。
- イ 友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことにかかわる見方・考え方・感じ方を自らの体験場面での内面と関係付けて類推しながら深めたり、広げたりすることができる。
- ウ 自分本位な考えや思慮不足などの心の弱さから、友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことができないことがあることに気付くとともに、友達のありがたさを理解し、相手の気持ちを思いやって互いに助け合ったり協力し合ったりしながら生活していこうとする意義や心構えの大切さを理解することができる。

#### (2) 本時の展開に当たって

つよしたちの心情や心情の変化に十分共感させるために、つよしたちの立場に自分を置き換えさせたり、生活場面での体験を想起させ、そのときの内面と関係付けたりしながら考えさせる。また、対話活動を通して多様な見方・考え方・感じ方に触れさせ、比較させることで、自分の道徳的価値に対する見方・考え方・感じ方を深めたり広げたりできるようにするとともに、そのこととどのようにかかわっていきたいかなどを考えさせるようにしたい。

#### (3) 実 際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
気付く	1 友達についての自分の思いや、友達と仲良くしたり、協力し合ったりすることができなかったときの気持ちを発表し、考えていきたい問題に気付く。  友達と仲良く助け合っていくためには、どんな気持ちや考えをもつことが大切だろう。	(分) ↑ 7 ↓	○ 友達とのかかわりについて、こうありたいという自分の思いと、友達と仲良くしたり、協力し合ったりすることができなかったときの気持ちを対比させ、その矛盾から問題意識をもたせる。 ○ 資料を感動的に読み取らせるために、録音CDや場面絵を効果的に活用する。
さぐる	2 資料「ぼくの友だち」を読んで、友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことにかかわる生き方について話し合う。 ⑴ つよしたちの言動や心情、心情の変化について感想をもち、発表する。 ⑵ つよしたちの心の弱さや迷い、ただしを誘った場面での心の背景や気付いた意義・心構えについて話し合う。  【心の弱さ】 仲の良い友達と食べたい (自分本位な考え) ↓ 誰かと食べればいいのに (思慮不足) ↓ 誘っても得にはならない。 (利害損得の感情)  【ただしを誘ったときの感動】 ・ ただしも誘ってほしかったんだな。 ・ ぼくも友達のおかげでがんばれた。 ・ ただしのことがわかってよかった。 ・ 勇気を出して誘ってみてよかったな。  【意義】 友達がいる喜び→友達のことをよく知る→友達もうれしい→互いに信頼し合える→互いに協力し合える →みんなが喜ぶ→みんなが助け合う 【心構え】 相手の気持ちを考える、友達のありがたさを感じる、相手のことを知ろうとする、勇気を出して行動する、相手を信じる気持ちをもつ、自分のことだけを考えない など	↑ 18 ↓	○ つよしたちの心情や心情の変化に十分に共感させるために、資料一読後の感想から、周りの友達と励まし合って山を登りきることでできたつよしが、一人で弁当を食べようとしているただしを誘うかどうか迷っている場面に焦点化する。 ◎「ただしのことが、つよしはなぜ気になったのだろう。」 ○ つよしたちの心情や心情の変化への共感を高めるために、つよしたちの立場に自分を置き換えて考えさせたり、生活場面での体験を想起させ、そのときの内面と関係付けたりしながら考えさせる。 ◎「つよしは、どんな気持ちや考えを大切にしようと思いい、ただしを誘ったのだろう。」 ○ 友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことのよさや大切さに気付かせるために、つよしが大切にしたい意義や心構えについて考えさせ、発表させる。
見つける	【意義】 友達がいる喜び→友達のことをよく知る→友達もうれしい→互いに信頼し合える→互いに協力し合える →みんなが喜ぶ→みんなが助け合う 【心構え】 相手の気持ちを考える、友達のありがたさを感じる、相手のことを知ろうとする、勇気を出して行動する、相手を信じる気持ちをもつ、自分のことだけを考えない など	↑ 13 ↓	○ 友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことの意義や心構え、それを阻む心の弱さへの見方・考え方・感じ方を深めたり広げたりするために、意義や心構えを大切にすることの難しさを意識させるようにする。 その際、対話活動を通して、板書を構造化したり、これまでの自分の生き方を振り返らせるような発問を行って子どもたちとともに内容を膨らませていったりすることで、意義や心構え、そのことを阻む心の弱さについて、さらに深く広くとらえられるようにする。
深める	⑶ つよしたちの生き方を振り返り、自分の考えと友達の考えを比べて、感じたことや考えたことを発表し合う。 3 学習したことを振り返り、友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことを進んで行うことについて、どんな気持ちや考えをもつことが大切か、自分なりの考えをまとめる。  相手の気持ちを考えれば、もっといろいろなことをいっしょにがんばれそうだな。  たくさんの友達といろいろなことに楽しみながらチャレンジしたいな。	↑ 7 ↓	○ これからの生活の中で、友達と互いに理解し、信頼し、助け合おうとする意欲を高めるために、学習の振り返りを通して、自分なりの考えをまとめて発表させる。 その際、授業を通して自分が強く共感できるようになった考えについて、これからの生活の中でどのようにかかわっていきたいと考えているのかということや、これまでの生活の中で感じていた気持ちはどのような意義や心構えにつながるのかなど、自己評価として自分の考えをまとめてめさせるようにする。
見通す	4 友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことを進んで行うことについて、教師の話聞く。	↑ 7 ↓	○ 心のノート 44、45p の内容を基に、友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことにかかわる説話をを行い、余韻をもって終わるようにする。